

1. 計画の目標

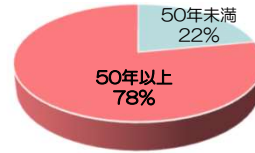
予防保全型管理を導入することで、今後**100年間施設を健全な状態**に保ち、**対策費用の低減・平準化**を図る

2. 施設の現状

○懸念されている施設の経年劣化

【30年後の状況（2053年度）】

30年後、砂防施設（計画対象666施設）の内、約78%が完成から50年を経過する見込み



坂沢 砂防堰堤



峰入川 砂防堰堤

3. 定期点検の内容

令和5・6年度に外観変状調査を実施
従来と同様の手法に加え、**新技術**を適用

○外観変状調査（UAV画像計測・水中ドローン）

従来の目視点検に加え、カメラを搭載したUAVや水中ドローンを使用し、写真計測や映像データを取得することで、施設外観の状況を調査



目視点検実施状況



UAV点検実施状況

4. 取組内容

【予防保全型管理】

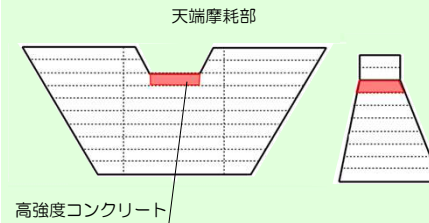
定期点検により施設の状況を把握し、**機能が低下する前に対策工事を実施**

○対策対象となる施設

- ・変状状態が予防保全段階である施設

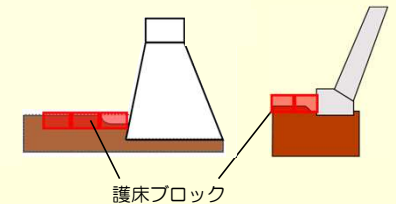
○高強度コンクリート被覆工

越流部表面を高強度コンクリート等により被覆する



○護床工

洗掘部に対し、流水外力に抵抗できる重量のブロック等を敷設する



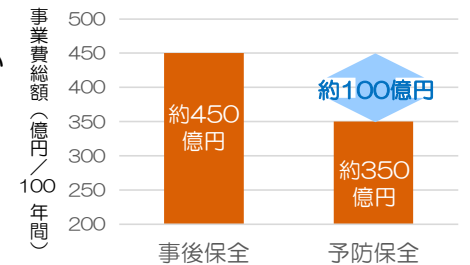
5. 事業効果(100年間)

○安全・安心の確保

機能を確実に発揮させ、土砂災害から都民の命と暮らしを守る

○コスト削減効果：約100億円

予防保全型管理と、それを行わない場合の100年分のコストを比較



6. 事業計画(10年間)

○令和8年度～令和17年度の10年間の事業規模

対象施設数：44施設（31渓流） 事業費：約44億円

7. 今後の方針

原則、5年ごとに定期点検を実施し、優先度等の計画内容を見直す